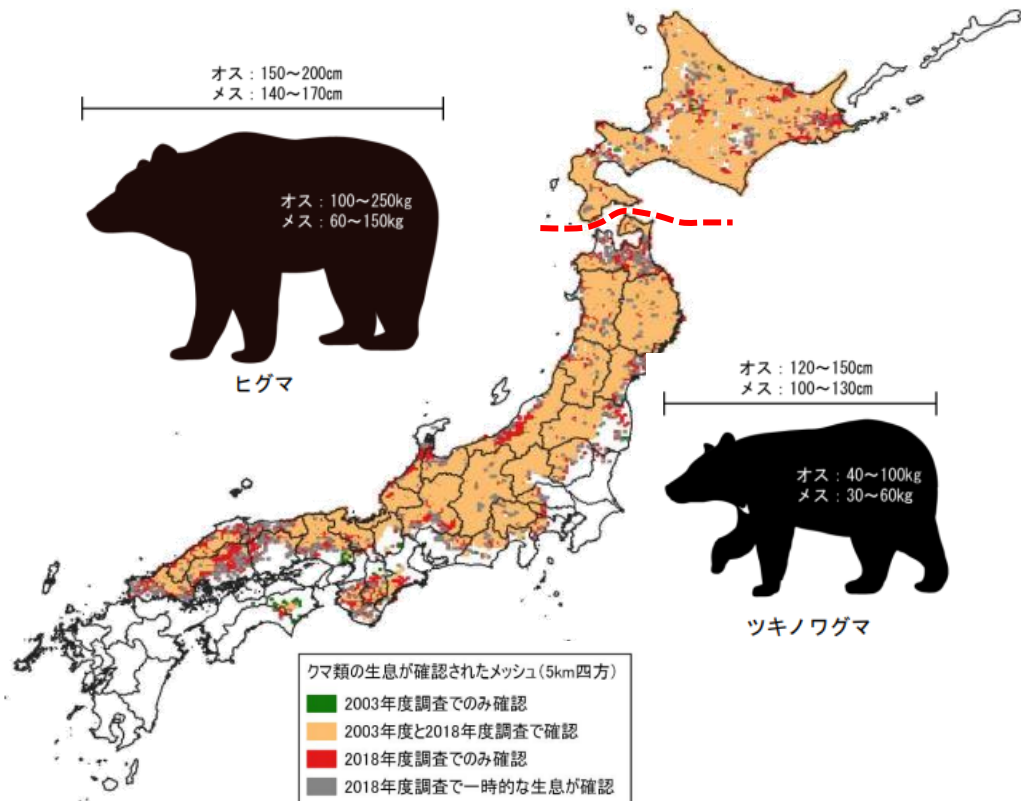


クマの生態

分布

北海道にヒグマ、本州と四国にツキノワグマが生息している。



身体的特徴

- 体重は春から夏にかけて減少、秋は冬眠に備えて脂肪を蓄積するため急増する。
- 大きな犬歯を持つが、食べ物は植物質中心のため、大臼歯は食べ物をすりつぶすのに適した形状になっている。
- 上腕の筋肉が発達しており、可動域の広い関節と鋭い爪をもつため、ヒグマのオス成獣の様な体が大きい個体を除き、木登りが得意である。
- 嗅覚が非常に優れ、聴覚も発達していると言われている。

生活史

冬眠・出産(11月下旬～5月)

- 11月下旬～12月頃に冬眠に入り、3月～5月まで冬眠する。
- 繁殖したメスは冬眠中(1月下旬～2月上旬)に出産する。出産したメスは冬眠明けの時期が遅い傾向にある。
- ツキノワグマは1年半、ヒグマは1～2年半の子育てを行う。それ以外は単独で行動する。

繁殖期・分散期(6～7月)

- ツキノワグマはオスで2～3歳、メスで4歳程度、ヒグマはオスで2～4歳、メスで3～4歳で繁殖が可能となる。

- ・繁殖期と同時期に子別れをする。親から離れた若いオスは出生地から離れた場所へ移動する(分散)。分散は若いオスが春から夏に人の生活圏への出没が増加する要因となる。
- ・繁殖期はオスとメスが一時的に行動を共にする場合がある。

飽食期(10～11月)

- ・冬眠に備えて食欲が増す時期であり、多くの餌を求めて行動が活発になる。
- ・一日の活動時間が長くなり、夜間の活動量も増加する。
- ・堅果類が不作時には行動圏が拡大し、人の生活圏への出没が増加する要因となる。

寿命(野生下)

- ・捕獲個体の記録からツキノワグマで15～20歳、ヒグマで20歳程度と考えられる。

食性

植物質中心の雑食性で、餌の分布や量により柔軟に食べ物を変化させるため、地域や年により食性は様々である。動物を積極的に襲うことは稀だが、捕獲されたシカの死体等を利用することはある。

春

- ・山菜や草本類を食べる。山菜採りで遭害が増加する。
- ・冬期に衰弱死したシカの死体等を食べることもある。

夏

- ・草本類、アリ等の昆虫類、イチゴ類・サクランボ等の果実類を食べる。
- ・シカの新生子を食べることもある。

秋

- ・ブナ・ミズナラ等の堅果類、ヤマブドウ・サルナシ等の果実類を食べる。
- ・堅果類が重要な食べ物となるため、堅果類が不作の年は人の生活圏へクリやカキ等を求めて出没が増加する。
- ・サケ類が遡上する河川では重要な食べ物となる(特にヒグマ)。

